

青南幼稚園だより

7月号

平成26年 6月30日 園長 西澤 尚子

言葉

なかなか梅雨が明けず、雨がよく降る6月でした。保育の中では、その雨も活かし、季節を取り入れた活動、室内での遊びが展開されています。

3歳児学級では、かさの形の紙に模様を付ける製作をしていました。できあがったかさを室内に飾っていく様子を見ていた一人の幼児が「あめあめ、ふれふれ母さんが…」と口ずさみました。そばにいたもう一人の幼児も「だのめでお迎え…」と続けました。3歳児が、この歌を知っている、ということに驚き、蛇の目傘は知らないのに、聞き覚えと「だ」にも聞こえるのだろう、と微笑ましく聞いていました。

言葉はいろいろな面をもちます。「あめふり」という歌を口ずさめる子どもは、きっと家庭でこの歌を耳にする機会があったのだと思います。もしかしたらご両親が、雨の日に歌って聞かせてくれたのかもしれません。そうやって、言葉が情景とともに心地良く伝わっていくのは、子どもたちにとって幸せなことだと思います。言葉を知ることで、豊かに考えイメージを広げることできます。けれど、言葉は時に、鋭く心に刺さることも、心に届かず流れていくこともあります。鋭い言葉や心まで届かない言葉が度重なると、聞く姿勢がもちにくくなるように思います。

耳に痛い言葉でも、伝えなくてはならないことはあります。危険について、人を傷つけたり困らせたりすることに対しては、何としても伝えなくてはなりません。子どもたちに伝わっているでしょうか。伝えたい言葉が心に届くには、日頃からの相手を意識した言葉のやりとりが大事なのだと思います。

5歳児かえで組は、3歳児いちご組に昼食の準備の手伝いに行っています。机を拭いたり、麦茶を入れたり、支度に困っていると教えたりします。終わりに自己紹介をし、いちご組に名前を呼ばれると嬉しそうにしています。名前を呼ばれるだけでも嬉しい、このような温かい気持ちを運ぶ言葉。常日頃の関わりが、聞きたい気持ち、耳に痛くても真剣に聞こうとする態度を育てます。園内に、そして家庭にも、優しい心のこもった言葉があふれるようにと願います。

幼稚園公開で親子活動



3歳児・いちご組親子



4歳児・すみれ組親子



5歳児・かえで組親子



3・4歳児と一緒にリズム

7月指導のねらい

- 3歳児 ○自分の好きな遊びを見つけてする中で、先生や友達と一緒に過ごす。
○新しい素材に触れたり、水の感触を楽しんだりする。
○園生活に必要な身の回りのこと(着替え、片付け)など、できることを自分でしようとする。
○学級で集まって、先生や友達と一緒に過ごす楽しさを感じる。
- 4歳児 ○自分のしたい遊びを十分に楽しんだり、友達との関わりを楽しんだりする。
○プール遊びや水を使った遊びを楽しみ、解放感を味わう。
○遊びや生活に必要な、身支度や準備を自分でしようとする。
- 5歳児 ○水遊び等様々な遊びを通して自分なりの目当てをもち、繰り返したり工夫したり挑戦したりすることを楽しむ。
○グループの友達や学級のみんなと一緒にすることを楽しみながら、つながりを感じていく。
○夏の生活に必要なことに気づき、進んで行く。